

【BS】Rituximab 療法【特発性血小板減少性紫斑病】

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

【BS】Rituximab 療法

【特発性血小板減少性紫斑病】

1 週毎 4 コース予定

疾患名 特発性血小板減少性紫斑病

主治医 _____ 指導医 _____ HBs 抗原(+ -) HBc 抗体(+ -) HCV 抗体(+ -)

スケジュール

		day 1
リツキシマブ BS	375 mg/m ²	↓

【注意】* 初回投与は必ず入院で実施すること。

* 体温・脈拍・血圧測定・SpO₂ 測定は up 直前におこなうこと。

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

【初回】 * 初回投与は必ず入院で実施

① イブプロフェン(100 mg) _____ 錠 + デザレックス(5 mg) _____ 錠 内服

☆30 分後より

② 生食 500 mL にて血管確保 _____ 維持(20 mL/時間)

③ リツキシマブ BS _____ + 生食 適量(10 倍希釈)

* 注: 総量 600 mL を超える時はテルモ生食1L を使用

◎輸液ポンプにて 50 mL/時間で点滴静注

④ 50 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注

⑤ 100 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

⑥ 150 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

【BS】Rituximab 療法【特発性血小板減少紫斑病】

- ⑦ 200 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 250 mL/時間で点滴静注
- ⑧ 250 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 300 mL/時間で点滴静注
- ⑨ 300 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 350 mL/時間で点滴静注
- ⑩ 350 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 400 mL/時間で点滴静注

【2回目以降】 1 コースに発現した有害事象が Grade 2 以下であった場合

- ① イブプロフェン(100 mg) _____ 錠 + デザレックス(5 mg) _____ 錠 内服

☆30 分後より

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② リツキシマブ BS + 生食 適量(10 倍希釈)

*注:総量 600 mL を超える時はテルモ生食1L を使用

- ◎輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注
- ③ 100 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注
- ④ 200 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 300 mL/時間で点滴静注
- ⑤ 300 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて 400 mL/時間で点滴静注

	コース	コース	コース	コース
月 日	/	/	/	/
リツキシマブ BS 開始時刻	↓	↓	↓	↓
確 認				

【BS】Rituximab 療法【特発性血小板減少紫斑病】